

2016 年度 入学式式辞

中京大学学長 安村 仁志

Spring has come.

新しい生命の芽生える季節の初めの今日、ここに新入生 3,301 名を迎えることができますことは大きな喜びです。入学おめでとうございます。

スプリング—こころ弾む思いがします。この語には、《春》のほか、《泉》、《バネ》という意味もあります。無関係のように見えて、実はつながりがあります。それぞれ《跳ねる》という動詞からできており、バネはそのものズバリです。泉は、地面の中から水が跳ね出してくるもの、春は、蕾が膨らんでピョンと跳ねるようにして開花する季節ということでしょう。「跳ねる」は飛躍につながり、夢いっぱいになります。そうした春の日、皆さんは中京大学に入学し、新しい生活に入ろうとしています。大いに飛躍してください。いろいろなことが始まる、wonder(驚き)いっぱい、びっくりポンの季節です。How wonderful!

思い描いてみてください。この会場にこんなにも大勢の同期生がいて、さまざまな出会いがこれから始まります。多くが決まった授業をとるという高校時代とは違い、大学では自分で科目を選択し、自分で学びを組み立てていきます。授業以外でも、課外活動をするとか、資格を取ってみるとか、海外留学という夢もあります。いろいろな可能性に満ちています。自由も満ちています。How wonderful!

でも、皆さん、それらはあくまでも可能性であって、手を広げて待っているだけでも、口を開いて待っているだけでもダメです。意志を働かせ、自ら掴み取るものです。自由も同じです。何かにチャレンジしてみよう、もう少し先にしよう、他のことをやってみようなどと選び取っていくのです。ただ、安易な選択はしないでください。流される選択、自分に甘い選択はしないでください。よく考え、期待しつつ、勇気をもって決断することが重要です。それが、今盛んに求められる《自主性》《自立性》に通じるのです。卒業時に、中京大学で学んでよかったと思えるような学生生活を自ら作り上げていってください。

今どんなふうに入學を迎えていますか—第一志望の人だけではないでしょう、他の大学がダメだったからという人もあるでしょう。でも、そんなの関係ない！です。教職員は充実した授業、サポートをもって皆さんを指導します。皆さんも思いを一新し、同じスタートラインに立って、アクティブに学んでいってください。

本学は開学 63 年目を迎えています。建学の精神は《学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ》で、学術の研鑽とジェントルマンシップの醸成とともに、健康の増強、心技の錬成とスポーツマンシップの体得を目指しています。そして、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ、の四大綱をもって人間力を備えた学生の育成に努めています。

六十周年を機に、これからの時代を見据えて策定した長期計画《NEXT10》の教育の基本方針は「自ら考え、行動する、しなやかな知識人を育成する」です。ここには、そのように育ってほしいという思いと、そのように教育しますという思いが込められています。

「自ら考え、行動する、しなやかな知識人」というのは、どういう人間でしょうか。皆さんは「人間は考える葦である」という言葉を聞いたことがあると思います。17世紀のフランスの思想家ブレイズ・パスカルのことばですが、よく考えてみると、わかったような、わからないような言葉です。本来は、「人間は一本の葦にすぎない。自然の中で一番弱いものである。だが、それは考える葦である」という文章を縮めてしまったものだからです。水辺に風に曝されながら生えている葦、いかにも弱そうです。しかし、パスカルはそれに譬えられるような弱い存在である人間は自らの弱さを自覚している点で偉大である、そうしたことを考えることに自らの尊厳があると言います。「われわれの尊厳のすべては、考えることのなかにある」と。

このように、私たちは「考える存在」なのですが、何をどのように考えるのでしょうか。さらに、「自ら考える」とはどういうことでしょうか。自分のこと、そして自分をとりまく人のこと、社会・世界のことを、よく考えるということでしょうか。人は一人では生きられないからです。自ら考えるとは、いろいろな考えに触れながら、自分で考えをまとめていくということでしょうか。それには、考える素地が必要です。そのために学ぶのです。一定の知識、自分とは違う人・違う考え方にも触れることが必要です。それが大学という場なのです。

そのうえで、「自ら行動できる」とは、考えるだけでなく、行動に結びつけていくことを言い表しています。十分に考え、判断し、それに基づいて、思いを伝えたり、表現したり、行動できるようになることが求められているのです。

最後に「しなやかな知識人」とあります。しなやかとは柔軟性を意味します。一人立つとき、さまざまな風が吹いてきます。順風であるばかりでなく、強い逆風のこともあります。横やりという風が吹くこともあります。それらに柔軟に対応しながら立ち続けることがしなやかということでしょう。レジリエンスという心理学の用語がありますが、柳のようにしなやかで決して折れない強さを意味しているようです。先ほどの葦も同様で、どんな状況においても柔軟に対応し立ち続けられる知識人になって欲しいということです。

そこで大切なこととして、教養を身に着けてください。教養とは知識をたくさん持つことではありません。英語では **culture** です。ここでいう **culture** は「文化」ではありません。**cultivate**（耕す）からできた語です。実際、**agri**（土）を耕せば、「**agriculture** 農業」となり、頭と心を耕せば「教養」となるということです。ちょっと難しいことばになりますが、大学生になられたのですから申します。「知識の受肉化」ということです。講義や読書、調査・研究・討論を通じて得る知識がそのままの形でとどまっているのではなく、先に申しましたように、考え、行動することにつながるように血となり肉になるということです。今日いろいろな問題がありますが、その一つとして、高度に発達した科学技術の恩恵を受

けながら、“これまで経験しなかったような”がつくような地球規模での環境問題、気象異変、目に見えないネット犯罪などの問題があります。また、少子高齢社会の問題、労働人口減少の問題は皆さんにとってこの先直接関係あることです。その中でどのように生きていくか大変ですが、生きる力・生き方につながっていくように、学びをわがものにしていただきます。

大学の主役は皆さんです。11の学部、多彩なカリキュラム、たくさんの書がそろっている図書館、正課外の資格講座・就職指導、さまざまな文化系・体育系の部活といった舞台装置は整っています、総合大学の利点を大いに活用し、存分に主役を演じてください。

改めて、皆さんの入学を心から歓迎します。会場においで下さった保護者の皆さま、来賓の方々にも感謝し、式辞といたします。

2016年4月1日